四賀ガルテナーの楽しみ
ガルテンで何してん!?

信州に癒されながら創る熟年新生活の楽しみ

坊主山クラインガルテン 302号 石田 進さん

「ストレスがなくなっている」。石田さん(70)がふとそう感じたのは、ガルテナーになって2年が過ぎたころだったといいます。2009年に入居し、最近では4月から12月までの9カ月間に150日ほど滞在。「自由で気ままな自分の時間を好き勝手に過ごせることがありがたい。ここに来て本当に良かった」と満足気に笑む石田さんです。

3人の男の子を育て上げた宇治市のご自宅では、妻の祥子(さちこ)さん(69)と2人暮らし。祥子さんがクラインガルテンを訪れるのは年に1度ほどで、離れている間は毎朝メールで安否を確認します。「すぐには帰れないこの距離が大きなメリットを生みました。自宅を出る時も帰る時も楽しみで、それは家内も同じだと思います」。

クラインガルテンで身の回りの一切を自身でするようになった石田さんは、自宅で過ごす時も「家内の負担にならないように」と、自ら食事の支度をするなど祥子さんを気遣います。「友達と食事をしたり習い事をしたりして、家内が楽しそうなのはうれしい。子育てや家事などで苦労をかけたお返しです。感謝です」。

「晴耕雨読」の暮らしに憧れていたという石田さんは、新聞に大きく載った四賀クラインガルテンの記事を読み、スキーで長野県によく来ていたこともあって、ここでのガルテナー生活を選びました。「晴耕雨読」を実践する石田さんの畑仕事は、もっぱら日差しの高い日中。「無心になれていい。汗をびっしょりかいて午後3時ごろ終わりにします。あとはシャワーを浴びてビールを飲む。最高です。サツマイモのツルで作るきんぴらはつまみにもいい」とにっこり。「タマネギの苗床は、空箱の蓋とゴルフボールを利用して平らに作りました。自分で考えた水平器ですよ」と、ここでの暮らしを本当に楽しそうに話します。

「雨の日は…読書はあまりしません」と笑う石田さん。室内ではパソコンを利用して観光地のネット検索をしたり、畑の作付け図を作ったり、作業内容などを記録する短い日記も書きます。

「来年度からの5年間をどう過ごすかを考えているのですが、手書きの日記を書きたくなりました。パソコンで書いている日記より少し長くなりそうです。こんな気持ちになれたのも、ここで過ごしているからでしょう」と、穏やかにほほ笑む石田さんです。